

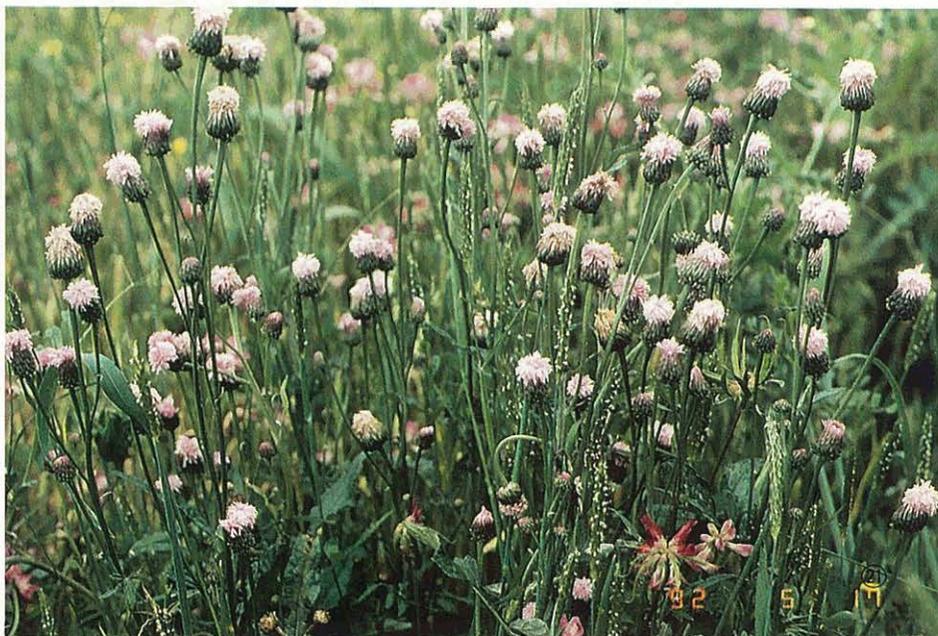


▲ キショウブ (アヤメ科)

ヨーロッパ大陸原産の帰化植物。極めて強健です。この属はほとんど紫色の花なのに本種だけ黄色です。町内の河川や水田の側溝などで多く見られます。

▼ キツネアザミ (キク科)

田畑や路傍に見られる2年草。一見、アザミの花か？とだまされるので狐薊(キツネアザミ)の名がつけました。町内の平地部で多く見られます。





▲ カキラン (ラン科)

湿地に生える多年草。茎は高さ30～70cmで、葉は互生し茎を抱くようにつきます。和名は柿蘭(かきらん)の意で花の色によります。町内には少ないようです。



▲ ネジバナ (ラン科)

日当たりの良い野原などに生える多年草。春～夏にかけて花茎上に多くの花がラセン状にねじれてつきます。町内にやや普通に見られます。



▲ ウマノスズクサ (ウマノスズクサ科)

多年草のつる草。花の基部は耳状に張り出し、葉柄のつく部分は心形にへこみます。ジャコウアゲハの食草で町内ではややまれです。



▲ ホタルブクロ (キキョウ科)

山野の路傍に生える多年草。夏～秋に大きな釣鐘状の花冠を開き、がく片間の付属片は強く反り返っています。町内の山野にやや普通に見られます。

▼ ソクズ (スイカズラ科)

川沿いなどに群生して生える多年草。漢方では根や葉を、はれものや、リュウマチなどに利用します。花期は7～8月頃です。町内では普通に見られます。



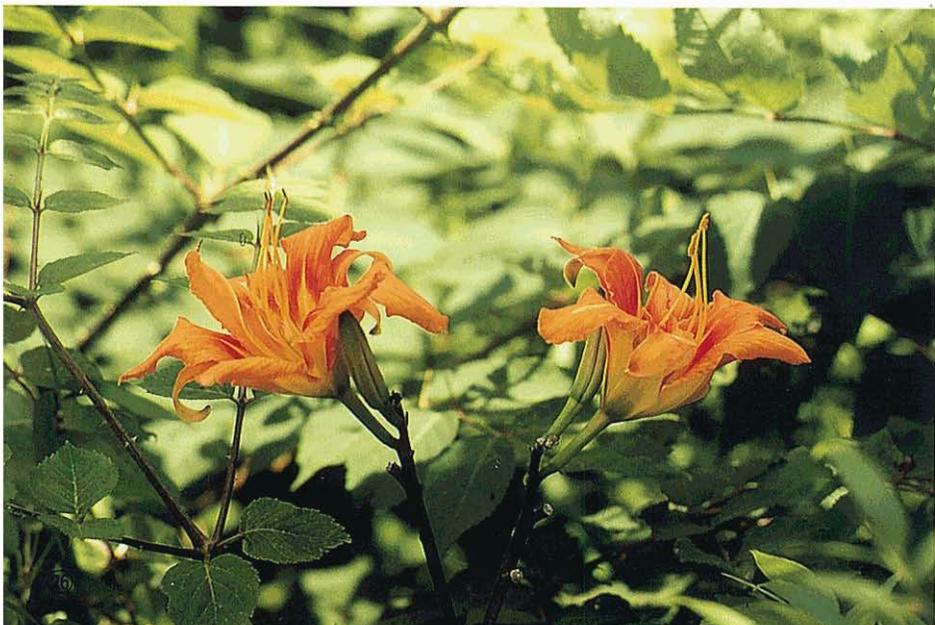


▲ チダケサシ (ユキノシタ科)

湿った場所に生える多年草。花期は夏で、高さ40~80cmの花茎の先に淡紅~白色の小花を多数つけます。町内の湿地に見られます。

▼ ヤブカンゾウ (ユリ科)

土手、林縁などに生える多年草。夏、花茎を伸ばして八重咲きの大型の花を開きます。よく似たノカンゾウは一重咲きです。町内には普通に見られます。





▲ ナンバンギセル (ハマウツボ科)

1年生の寄生植物で花期は夏～秋。ススキの根元に見られ、葉緑体がないので花期にならないと見つかりません。町内にはまれに見られます。



▲ ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科)

ミミカキグサと非常によく似た、湿地に見られる多年生の食虫植物。夏～秋、淡紫色の小花を開きます。町内の湿地にやや普通に見られます。



▲ ミミカキグサ (タヌキモ科)

湿地に生える多年生の食虫植物。地下茎を伸ばし、まばらに捕虫袋をつけます。夏～秋、黄色の小花を開きます。町内の湿地にやや普通に見られます。

▼ スズメウリ (ウリ科)

やや湿った場所に生えます。夏、白い花を開くが雌雄異花です。果実は初め緑色ですが、熟すと灰白色になります。町内ではやや少ないようです。





▲ トキワハゼ (ゴマノハグサ科)

人里近くに普通に生える1年草。サギゴケに似ていますが、トキワハゼは、横にはう枝を出さずに立ち上がります。春から秋まで長く花をつけます。



▲ ミズギボウシ (ユリ科)

日当たりの良い湿地に生える多年草。葉は細長く、夏季、花茎を伸ばして一方にかたよった花序をつけます。町内の湿地に普通に見られます。



▲ サギソウ (ラン科)

日当たりの良い湿地に生え、白鷺(シラサギ)の羽根のように見えるのは唇弁(しんべん)の側裂片(そくれつへん)です。町内の湿地では少なくなりました。



▲ コバノトンボソウ (ラン科)

湿った草原に生える20~40cmの多年草。葉は1枚で基部は茎を抱きます。花の細長い距(きょ)が後ろにはね上がります。町内にはまれに見られます。



▲ サワギキョウ (キキョウ科)

山地の湿地に生える多年草。花期は夏です。葯(やく)は、くっついてその中を雌しべが通っています。町内の湿地に見られますが少ないようです。



▲ サワシロギク (キク科)

日当たりの良い湿地に生える多年草。初夏～初秋にかけて白花を開くが後に紅紫色に変わります。町内の湿地に見られますが少ないようです。



▲ セニンソウ (キンボウゲ科)

日当たりの良い林縁に生えるつる植物で、よく見ると茎が巻くのでなく葉柄が他の物に巻きつきます。花期は夏で町内に普通に見られます。



▲ ガガイモ (ガガイモ科)

多年草のつる草で地下茎で増え、茎や葉を切ると白い乳液が出ます。花期は夏で町内で普通に見られます。

▼ カワラケツメイ (マメ科)

河原や路傍に生える多年草。決明(ケツメイ)はハブソウの漢名で河原に生える決明という意味です。花はマメ科で原始的な構造です。町内には少ないようです。





▲ ナツズイセン (ユリ科)

人里近くに生えます。水仙(スイセン)に似た葉が春に出て夏には枯れ、花茎を伸ばして淡紅色の花をつけ地下の鱗茎(りんけい)で増えます。町内には少ないようです。



▲ コガマ (ガマ科)

花茎上部の太い部分は雌花穂で、上部の細いのは雄花穂です。
町内にはガマ、ヒメガマ、コガマが見られますが、コガマが一番少ないようです。



▲ ミズオオバコ (トチカガミ科)

水田の浅い溝に生える1年草。葉はオオバコにそっくりで、秋、水面に3弁の花を開きます。町内にはまれに見られます。

▼ タヌキモ (タヌキモ科)

池や沼に浮かぶ水草。水中葉は細裂して複雑な形をしています。夏季、水面から花茎を出して黄色の小花を咲かせます。町内の池に普通です。

